博士（文学）学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	柳下惠美
論　文　題　目	イザドラ・ダンカンの舞踊芸術の形成とその普及 ー彼女と継承者たちの国際的公演・教育活動を中心にー

審査要旨

柳下惠美氏の博士（文学）学位請求論文『イザドラ・ダンカンの舞踊芸術の形成とその普及ー彼女と継承者たちの国際的公演・教育活動を中心にー』の主題は、そのタイトルが示すとおり、イザドラ・ダンカンの舞踊芸術に関する歴史的研究である。

イザドラ・ダンカンの名前は広く知られている。彼女が、バレエに反発し、裸足で自由奔放に踊り、モダンダンスの創始者になったことも、多くの人が知っている。しかし、これまで人びとの関心は、彼女の舞踊よりも、彼女の波瀾万丈の生涯のほうに集中しており、何冊かの伝記が出版されているが、ダンカンの舞踊そのものに関する研究は、世界的にみても非常に少ない。すなわち先行研究が僅かしかないテーマに、柳下氏は敢えて挑んだわけである。

柳下氏の論文は 3 部構成で、第一部ではダンカン自身の生涯にわたる舞踊活動を、年代順に追っている。第二部では彼女が創立した3つの舞踊学校について論じる。第三部では、「イザドラブルズ」と呼ばれる彼女の後継者たちを扱っている。分量的には第一部がほぼ全体の半分を占め、第二部と第三部が残りの半分である。

第一部は、評伝に近いもので、ダンカンの出生から悲劇的な事故死にいたる50年の生涯を追っている。ただし、これまで出版されている伝記の多くが、シンガー、クレイグ、エセーニンらとの自由奔放な恋愛関係に主に焦点をあてていた（それらが伝統的な家父長制・一夫一婦制に対する反発だとして、一部のフェミニストの共感を呼んできた）のに対し、柳下氏の論文は、舞踊史学の研究者として、そうしたことについては詳しく触れず、ひたすらダンカンの舞踊活動を追っている。その舞踊活動は、公演活動と教育活動に分れるが、後者は第二部で扱い、第一部ではダンカンの公演活動に焦点をあてている。特筆すべきは、柳下氏が世界中のアーカイブ、研究施設をまわって、可能な限り原資料に当たり、これまで出版された伝記や評論に見出される数多くの誤りを指摘していることである。これは相当な労力を必要とすることであり、今後、ダンカン研究はかならずこの柳下氏の論文を参照しなければならないだろう。

第二部は、ダンカンがフランス、ドイツ、ロシアに創立した三つの舞踊学校について論じる。柳下氏は、いずれについても、学校組織、教科・日課などの教育内容について、おそらく現在可能な限り、詳しく論じており、これまでほとんど知られていなかったダンカン学校の現実を明らかにしている。

第三部は、イザドラブルズと呼ばれ、「ダンカン」という苗字（芸名）を与えられた、いわばダンカンの養女的な存在である 6 人の「継承者」について論じる。イザドラブルズについても、これまでは、イルマ・ダンカンを除き、ほとんど知られていなかった。柳下氏の研究により、ダンカンがどのような少女たちを自分の後継者として選び、彼女たちがその後どのような生涯をたどったのかが初めて明らかになった。

柳下氏の方法論は徹底した実証主義である。巻末のリストに明らかなように、柳下氏は世界各地のアーカイブ、研究機関で可能な限り原資料を渉猟し、さらにダンカンの末裔、孫弟子をはじめ、大勢の関係者にインタビューをしている。その多くは高齢者なので、世界的に見ても、今後これに匹敵する調査は不可能であろう。

その資料収集、インタビュー、そして単純に分量面だけから見ても、この論文は大変な労作といえよう。

しかし他方で、審査会では問題点もいくつか指摘された。

まず、ダンカンの舞踊の本質について、柳下氏は「未来の舞踊」と主張しているが、その内容がどのようなものであるかは、本論文からは不明確なままである。歴史的事実について客観的に記述することが主眼の論文ではあるが、これほど詳細に記述しているのなら、さらにダンカンの舞踊の美学的本質についての見解があれ

ば、ダンカンの舞踊に対するより明確な理解が可能になったのではないだろうか。徹底した実証主義の立場から、資料的裏付けのないことを書きたくなかったのであろうが、資料にもとづいた適正な推論を行うことにより、この論文はより多くの研究者の関心を引きつけるに違いない。

また、全体にダンカンに関する記述しかなく、同時代の舞踊の状況についてまったく触れられていないために、ダンカンがどのような状況の中で新しい舞踊を生み出していったのかが、わからないのではないかという指摘もなされた。舞踊学の論文である以上、舞踊史的な位置づけを明確にすべきであったろう。

以上のような問題点は指摘されたが、繰り返すが、これほどの徹底した資料収集は大変貴重であり、今後のダンカン研究に大いに寄与するものとして、博士学位の授与に相応しい論文である。

公開審査会開催日	2014 年　　12 月　　5 日			
審査委員資格	所属機関名称・資格	博士学位名称	専門分野	氏　名
主任審査委員	早稲田大学文学学術院教授		映画史	小松　弘
審査委員	早稲田大学文学学術院教授		西洋演劇・文化資源学	藤井　慎太郎
審査委員	早稲田大学文学学術院客員教授		身体表象論・舞踊学	鈴木　晶
審査委員	学習院女子大学教授		美学・舞踊学	尼ヶ崎　彬
審査委員	慶應義塾大学名誉教授		舞踊学・パフォーマンス論	石井　達朗